

動物実験に関する検証結果報告書

和歌山県立医科大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2026年3月

和歌山県立医科大学
学長 中尾 直之 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 小倉淳郎



対象機関：和歌山県立医科大学
申請年月日：2025 年 7 月 31 日
訪問調査年月日：2025 年 10 月 15 日
調査員：越本知大、角田 茂

検証の総評

和歌山県立医科大学は 1948 年に開学した公立大学であり、2 大学院、3 学部、及び 1 専攻科を擁している。同大学では、紀三井寺キャンパスの中核施設である動物実験施設及びラジオアイソトープ実験施設・動物実験室において、マウス、ラット、水生動物が、また、伏虎キャンパスの動物実験施設においてマウス、ラット、ハムスター等が飼養保管されている。これらの動物は、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則して、適正に管理されている。さらに、「和歌山県立医科大学における動物実験等の実施に関する規程（以下、「動物実験実施規程」という。）」を整備し、2024 年度には主に医学生命科学分野の研究目的での動物実験が医学部で 255 件、薬学部で 102 件実施されている。これらは文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下、「基本指針」という。）」に基づいて、動物実験計画書審査、承認、結果報告、教育訓練、自己点検・評価、情報公開等に至るまで一連の手続が適正に執られている。2021 年 4 月には薬学部の新設に伴い、伏虎キャンパスに新たな飼養保管施設が整備された。これにより、動物実験委員会の下に紀三井寺部会と伏虎部会を設けて分担対応する体制を執ることで、実情に沿って細やかな運営がなされている。紀三井寺キャンパスの中核施設では老朽化が一部進んでいるものの、空調設備の更新や飼育室の部分改修が実施され、適正な環境が維持されている。

一方で、紀三井寺部会と伏虎部会は独立的に運営されているため、動物実験計画書審査、教育訓練、自己点検・評価、情報公開等、大学として一本化した体制の構築が必要な部分が認められる。これについては、すでに改善に向けた協議が進んでおり、今後は大学全体としての機関管理体制を明確化するよう迅速な対応が期待される。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。<input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>基本指針及び飼養保管基準に則した動物実験実施規程が定められ、機関の長の下、動物実験委員会が設置されている。さらに、紀三井寺キャンパスを対象とした「和歌山県立医科大学動物実験施設利用規程」と伏虎キャンパスを対象とした「和歌山県立医科大学伏虎動物実験施設利用規程」（以下これらの2規程を総称して「施設利用規程」という。）が定められ、動物実験を実施する体制が整えられている。動物実験委員会、各キャンパスの紀三井寺部会と伏虎部会及び機関の長との関係性、及び動物実験委員会と2つの部会との機能分担などに不明確な部分も見られたが、体制統合に向けた規程改正の審議を進めており、訪問調査時に改正案の提示を受けた。したがって、機関内規程について、自己点検・評価結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。<input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>動物実験に関する組織体制図を作成するなどにより、2つの部会の位置付けを明確化した上で、動物実験実施規程を改正するとともに、公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という。）が公開する最新の機関内規程（雛形）等を参考に、動物実験実施規程の細部を精査し、更新されたい。</p>

2. 動物実験委員会

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。<input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験実施規程に則して、学長の下に基本指針が求める3要件を満たす動物実験委員会が組織され、各キャンパスにも同様の要件を満たす部会が組織されている。しかしながら、2つの部会の連携や情報の共有体制に改善すべき点が残されている。したがって、動物実験委員会につい</p>

<p>て、「基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。」との自己点検・評価の結果であるが、「動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。」とする。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input checked="" type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>動物実験実施規程の改正を行い、動物実験委員会と2つの部会の連携と機能分担を明確化することで、機関の長の下に動物実験委員会の機能が一元的に発揮できる体制を構築されたい。その際には2つの部会の運用ルールも策定されたい。また、動物実験委員会及び部会とも、委員から提出された動物実験計画の審査においても3要件の委員が確実に参加できるよう工夫されたい。</p>

3. 動物実験の実施体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めていない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>「動物実験計画申請書（計画書、研究概要書式を含む）」「動物実験終了・中止報告書」「飼養保管施設設置申請書」「動物実験室設置申請書」「施設等廃止届」の様式が整備されている。動物実験計画書の項目も、動物実験委員会で3Rsを審査するために必要な情報が網羅されている。また、動物実験計画の変更は「動物実験計画申請書」を用いることとなっている。動物実験の有効期限は5年で、その間の経過報告はアンケートの形式で動物実験委員会と部会が収集して把握している。したがって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>毎年実施する動物実験の実施状況アンケートを経過報告書として、学長にまで情報を報告し、機関として確実に把握されたい。</p>

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
--

<p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。</p>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>「和歌山県立医科大学研究用微生物安全管理規程」「和歌山県立医科大学医学部ラジオアイソトープ実験施設放射線障害予防規程」「和歌山県立医科大学遺伝子組換え実験安全管理規程」「和歌山県立医科大学感染性医療廃棄物管理規程」「研究施設における麻薬取扱いの手引」が整備され、動物実験計画承認申請書にも関連事項を記載する欄が設けられている。しかしながら、前回検証の指摘事項である、「有害化学物質の投与動物実験」については、法規に基づいた慎重な審査と実験が実施されているが、大学独自の規程を整備することを検討されたい。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、「基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。」との自己点検・評価の結果であるが、「該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。」とする。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。</p>
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>有害化学物質等の投与動物実験が法規に基づいて両キャンパスで実施されていることから、関連する規程を早急に整備されたい。また、麻薬研究者免許の取得状況を、動物実験委員会もしくは事務局にて一元的に管理されたい。</p>

5. 実験動物の飼養保管の体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>両キャンパスの飼養保管施設には管理者及び実験動物管理者が配置されており、施設利用規程がそれぞれに策定されている。書面上2か所ある紀三井寺キャンパス施設は同一棟の別フロアに設置され、共通の管理者、実験動物管理者によって管理されている。また、地震、火災、停電及び動物の逸走時等の災害・事故対応も定められている。したがって、実験動物の飼養保管の体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>

4) 改善に向けた意見

可能であれば、紀三井寺キャンパスの施設は統合管理することを推奨する。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

和歌山県立医科大学は 2017 年度に動物実験に関する外部検証を受検しており、今回が 2 回目である。前回の検証後に伏虎キャンパスに新たな飼養保管施設が設置され、薬学部の飼養保管体制が整備されている。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会の活動状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験実施規程に基づき、動物実験委員会の下に 2 つの部会を設けて動物実験計画書の審査、教育訓練の実施、自己点検・評価等を適正に実施している。関連する議事録や審査記録も適切に保管されている。したがって、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>部会の活動を、動物実験委員会で統括して学長に報告・助言する体制とすることが望ましい。</p>

2. 動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>基本指針や動物実験実施規程に則して動物実験計画の審査が実施され、2024 年度には更新分を含めて 357 件の動物実験計画が承認されている。毎年実施される動物実験アンケートと終了時の「動物実験終了・中止報告書」はほぼ 100%提出されている。したがって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>安全管理に注意を要する動物実験計画は毎年集計され、一覧が作成されている。感染実験は、両キャンパス施設の指定された区域内で実施されており、入退室管理がされている。安全管理に必要な大型オートクレーブや安全キャビネットの定期点検も確実に実施されており、記録も保存されている。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>特になし。</p>

4. 実験動物の飼養保管状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>両キャンパスの施設とも、実験動物管理者の下での飼養保管の方法などを記載した飼養保管マニュアルを作成して飼育業務を適正に実施している。施設の利用は登録制で、動物の購入や搬入に関する記録も保存されている。微生物モニタリング記録、機器の使用記録、温湿度、静圧に関する記録も整備され、保存されている。実験動物の飼育管理方法、健康管理方法、逸走予防及び逸走時対応に関する飼養保管マニュアルも作成され、それらに従った飼育管理が行われている。したがって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

日常管理に問題は生じていないが、両施設とも動物の順化、飼育室の環境条件、施設設備の保守点検等についても言及した飼養保管マニュアルとすることが望ましい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

伏虎キャンパスの新施設と比較すると紀三井寺キャンパスの中核施設は老朽化が一部に見られるものの、空調設備の更新や飼育室の部分改修が行われ、基本指針や飼養保管基準に従って管理されている。両施設とも整理整頓され、必要な日常点検記録類やオートクレーブの定期点検記録、修理記録、運転記録も保存されている。また、両施設とも実験動物飼養保管状況の自己点検を行い、両キャンパスの部会に提出されており、重大な問題は報告されていない。したがって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験実施者、飼養者等に対して、必要な項目がおおむね網羅された教育訓練が実施され、記録も保存されている。実験動物を用いた実習に参加する学生も、所定の教育訓練を受講している。紀三井寺キャンパスの実験動物管理者は、公私動協の実験動物管理者の教育訓練を受講している。したがって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

人獣共通感染症に関する事項など、両キャンパスともに必要事項が確実に網羅されるよう、動物実験委員会においてキャンパス間の教育訓練カリキュラムを相互確認して更新されたい。

伏虎キャンパスの実験動物管理者に対しても、管理者向け教育訓練の受講、あるいは必要情報を共有することが望ましい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験実施規程、前回の外部検証結果、2012 年度から 2024 年度までの自己点検・評価報告書及び動物実験に関する現況報告書など、国立大学法人動物実験施設協議会、公私動協が要請する公開項目を網羅した情報が、医学部動物実験施設のウェブサイト公開されている。したがって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

2021 年に新設された伏虎キャンパスの情報が、紀三井寺キャンパスのものとは別に集計されていることから、両キャンパスの部会で収集・整理された内容を動物実験委員会において統合した上で、和歌山県立医科大学の情報公開の一環として、全学ウェブサイト上に提示することを検討されたい。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

特になし。

日実動学-外検発 第R8-24号-証

検証実施証明書

和歌山県立医科大学
学長 中尾 直之 殿

貴機関は 公益社団法人日本実験動物学会
外部検証委員会による「動物実験に関する
外部検証事業」による自己点検・評価を行い
その結果に対する検証を本委員会が実施した
ことを証します

2026年3月16日

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 小倉 淳郎



No.2026-24

Japanese Association for Laboratory Animal Sciences



CERTIFICATE

President Prof. Naoyuki Nakao
Wakayama Medical University

Dear President

In every Japanese institution under the jurisdiction of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT, self-inspections and evaluations for the conduct of animal experiment and related activities must be verified by a third party, independent of the research institution concerned.

Japanese Association for Laboratory Animal Science (JALAS) certifies that Wakayama Medical University received "Assessment and Verification Program for Care and Use of Laboratory Animals in 2025".

Sincerely yours

16 March, 2026

Atsuo OGURA, Ph. D., D.V.M
President
JALAS

Masami MORIMATSU, Ph.D.,
D.V.M., DJCLAM
Chairman
Assessment and Verification
Committee, JALAS